

研究主題「実践的・体験的な学習活動を通して消費生活に関する問題解決能力を高める指導の在り方 - 消費者として主体的に生活を営む能力を育てる指導法の工夫 - 」

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
文京区立第七中学校 教諭 佐藤 明子

研究のねらい

1 研究主題設定の理由

消費者基本計画では、消費者が自立した主体として行動ができるよう、消費者教育の推進を強化する必要性を述べ、学校教育における消費者教育の目標を提示している。

技術・家庭科（家庭分野）において消費生活に関する学習は、これまでも身近な事例を通して、購入方法に関することや消費者被害の回避等を具体的に取扱ってきた。今日の社会においては、中学生も一人の消費者としての自立を目指し、自分の家庭生活に対して課題意識をもち、課題をよりよく解決しようとする態度を身に付けることが一層求められている。

そこで生徒が実践的・体験的な学習活動を通して消費生活に関する問題解決能力を高めることにより、消費者として主体的に生活を営む能力を育成できると考え、本主題を設定した。

2 研究の仮説

実践的・体験的な学習活動を通して消費生活について理解を深めさせるとともに、家庭分野の他の内容及び他教科との関連を図った系統的な指導を行えば、生徒が、よりよい消費者としての自覚をもち、進んで生活の工夫や創造をするようになるであろう。

研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 家庭分野における消費生活に関する学習の現状

家庭分野においては、昭和 61 年の国民生活会議で学校における消費者教育を強化する方向が示され、平成元年改訂学習指導要領では、領域「家庭生活」に消費者教育の視点が初めて盛り込まれた。現行の「内容 B (4) 家庭生活と消費」では、家庭生活において消費行動や環境に配慮した消費生活の工夫を学習することをねらいとしている。平成 20 年 1 月の中央教育審議会では、中学生の消費生活の変化を踏まえた実践的な学習活動を更に充実するとともに持続可能な社会の構築のための資源や環境に配慮したライフスタイルの確立を求めている。

なお、各教科等の学習内容に関連させて消費者教育は取り扱っている。そこで家庭分野及び各教科における学習指導要領に示されている消費生活に関連する学習内容についても整理した。

(2) 消費生活に関する学習を導入した授業の再構築

先行研究、先進事例及び専門書等から、消費生活に関する学習の先進的な取組をしている国々では、体系化されたカリキュラムに基づき、専門の指導者が、初等教育から高等教育まで系統的に指導している。また、消費生活の実態に即し、現実的な課題を取り上げた学習内容を構成し、実践的・体験的な学習を行っている。

消費者基本法の制定により、今日、消費者には保護される立場から自立への変換が迫られている。また、望ましい消費行動には、人やものとのかわりから情報を適切に判断し処理できる意思決定能力が求められている。その視点からも、消費生活に関する問題解決能力を生徒に身に付けさせる授業の再構築が必要である。

2 開発研究及び実践研究

(1) 消費生活に関する系統的な学習を実現する指導計画の開発

消費生活に関する学習を当該項目「内容B(4)家庭生活と消費」のみで扱うのではなく、各内容で関連して扱い、家庭分野の中で系統的に学習できるように3年間の指導計画を構成した。そして指導計画に基づき、内容B(4)と他の内容及び項目との関連を図った題材を18例開発した。具体的には「内容A(2)食品の選択と日常食の調理の基礎」、「内容A(4)室内環境の整備と住まい方」等との学習内容と関連付けを図った。

(2) 「家庭生活と消費」と他の内容及び項目との関連を図った題材の開発

問題解決能力を高めるための学習過程の工夫

消費生活に関する課題の解決に向けて生徒が工夫、創造し、態度化できる学習活動を実践するために、6段階の学習過程を設定した。(図1)学習過程では、順序性に加えて関連する学習内容を連続して学ぶことを大切にし、生徒が課題を解決したという成就感を体感できるようにした。

問題解決能力を高めるための学習方法の工夫

学習活動の配列の工夫として題材のはじめに、消費生活と関連する生活経験を振り返ることや、VTR等を活用し、消費生活に関する課題の意識化を図れるようにした。次の段階では、生徒の主体性を引き出すケーススタディーや疑似体験等の実践的・体験的な学習活動を組み込んで課題の解決に向けて学習を深められるようにした。また、グループでの話し合いやチーム・ティーチング等の学習形態の工夫をし、多様な解決法を理解して消費者としての自覚を促すようにした。まとめの段階では、家庭での実践例のディスカッションや解決法の発表等の学習活動を通して学習内容の定着を図るようにした。

問題解決から生活での実践へつなげる題材構成の工夫

家庭生活における望ましい消費行動を具体的に実践できるよう、消費生活に関する豊富な情報と実践例をもつ消費生活センターと連携し中学生の消費生活の実態に即した題材開発をした。また、消費生活センター職員とのチーム・ティーチング等、地域教育資源の効果的な活用を図った題材構成の工夫をした。

問題解決能力を高める学習過程における評価の工夫

生徒が身に付けた力を具体的な消費行動として生活へつなげられるよう、毎時間の学習内容の資料・情報と成果を集積していけるワークシートとポートフォリオシートを開発した。ワークシートは、課題の解決の際に理解したことの他に消費者としての行動について記述できるよう設問を精査した。ポートフォリオシートは、生徒が自ら意識や態度、知識、技能の変容に気付けるように題材の学習前と学習後の考えを記述させた。また、実践的・体験的な学習活動で深めた考えや生活に生かすことができる内容を授業後に記述させた。

研究の結果と考察

1 系統的な指導による消費者としての自覚の高まり

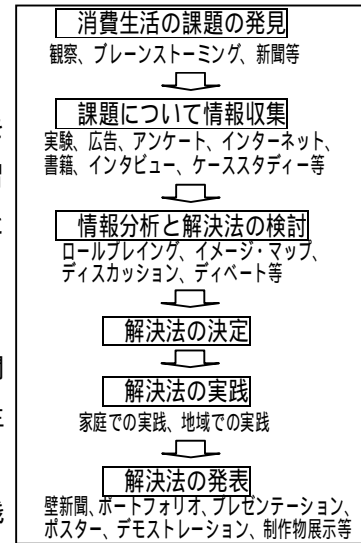


図1 問題解決能力を高める学習過程

第2学年を対象に「内容A(2)食品の選択と日常食の調理の基礎」と「内容B(4)家庭生活と消費」と「内容A(4)室内環境の整備と住まい方」の関連を図った授業を検証した。(図2) 3つの内容を関連させる視点を「環境負荷の少ない消費行動」とし、消費者としての自覚を高められるよう授業を展開した。

開発教材『わたしたちの消費生活と環境』において生徒は、内容A(2)の既習事項を生かして主体的に授業に取り組み、学習の深化を図ることができた。学習前と学習後に実施した消費生活に関する学習の実態を把握する質問項目では、学習後に表1のような肯定的な回答を得ることができた。

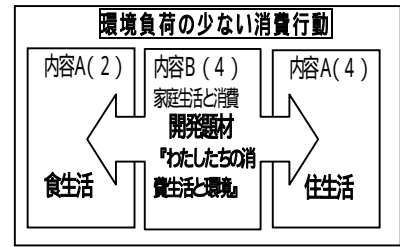


図2 開発教材の構成

表1 消費生活に関する学習の実態を把握する質問項目の回答割合

質問項目	授業前	授業後
代金を払って購入する商品の種類をあげることができますか。	60%	82%
商品の購入時のトラブルの解決法が分かりますか。	45%	75%
環境に配慮した暮らしを心掛けようと思いませんか。	55%	85%

また、内容A(4)の学習では、生徒が環境に配慮した暮らしに対して高い関心をもった状態から新しい題材に導入することができ、開発題材で得た既習事項を活用する場面も見られた。具体的には快適な住まい方の条件に「消費・廃棄・再資源化等、ものの循環を大切にする」、「自らの生活時間や家族との関係等の環境に配慮する」等を挙げ、環境に配慮した住生活の工夫について、自分なりの課題を見付け、解決を図ることができた。消費生活に関する系統的な学習により、生徒の学習意欲を高め、自らが生活者として自覚をもち、消費生活を主体的に営もうとする態度がうかがえた。

2 実践的・体験的な学習による消費生活に関する問題解決能力の高まり

(1) 今日的な消費生活に関する問題に対応する授業設計の効果

開発題材では、前述の6段階の学習過程を踏まえて「環境負荷の少ない消費行動」について全時間にわたって実践的・体験的な学習活動を導入し、指導計画を立案し実践した。(図3)

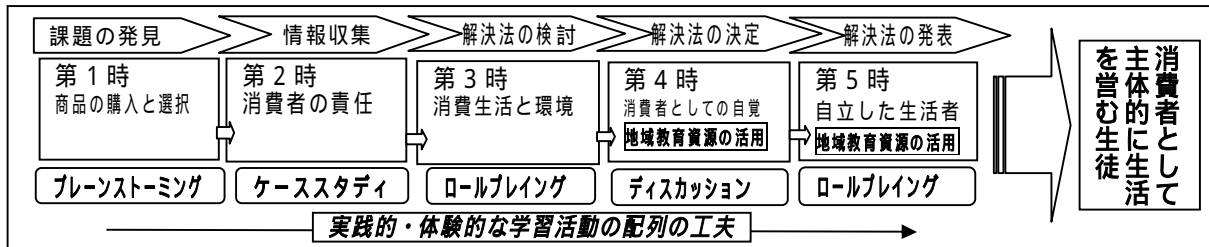


図3 開発教材『わたしたちの消費生活と環境』の指導計画

第1時、第2時及び第4時では、内容B(4)で身に付ける知識や技能を中心に構成した。

第1時と第2時は、学習の課題の把握を自分自身で確認できるブレンストーミングとケーススタディーを活用した。生徒は、商品の選択について先行学習や経験の違いを自ら踏まえ、消費行動を見直すことができた。情報収集の場面では、既得情報を積極的に提供したり、友達の意見を真剣に聞いたりする姿が見られた。第4時は、文京区消費生活センター職員とのチーム・ティーチングを活用した。生徒は、ディスカッションを通して消費生活に関する新しい情報や専門性の高い実践例を学び、グリーンコンシューマーの行動や循環型社会の消費者についての考えを深めた。このことから消費生活に関する学習は、多様な学習方法や学習形態の構成の工夫によって多面的に学ぶことが有効であることを確認できた。

(2) 問題解決を図るロールプレイングの効果

第3時と第5時では、状況設定の中で役割を演じることにより、それぞれの立場の違いを理

(参考) グリーンコンシューマー環境への影響を配慮した消費行動をする消費者をいう。

解して課題の解決を導く学習方法であるロールプレイングを2回行なった。第3時の1回目のロールプレイングでは、グループで消費生活における具体的な課題の解決法の検討に取り組んだ。第5時は、生徒が既習事項を活用し、自己の生活をよりよくする解決法を考えてシナリオを作成し、クラス全体でロールプレイングを行い、課題の解決について理解を深めた。実生活に近い場面設定は、生徒が主体的に消費生活に関する課題の解決を図るとともに、消費者としての当事者意識を高めることができた。授業後、生徒は、「商品を選ぶときは、廃棄のことも考える」、「目的を考えて選ぶ」等、自ら消費行動を振り返り、生活で実践しようとする考えをポートフォリオシートに記述していた。(表2)また、生徒は、実現可能な解決策の演技を相互に演じたり、見たりすることで、課題の解決には、多様な考え方があることに気付くことができた。このことから実践的・体験的な学習活動の配列の工夫により、学習内容の定着と学習を生活に生かそうとする意欲の高まりを確認できた。

表2 第3時と第5時の授業後の生徒の考え

	第3時	第5時
生徒A	商品を買うときは本当に必要なか考える。	無駄にならないように長く使えるものを選択する。
生徒B	購入のポイントを考えて好きなものだけを買わない。	季節や原産地を考えるのも環境に配慮していると気付いた。
生徒C	商品が値段にあったものか考える。	グリーンコンシューマーの行動を1つでも多くできるようにしていきたい。

(3) 生活での実践につなげる題材構成の効果

第4時と第5時では、消費生活センターの職員とのディスカッションを行った。学習後のワークシートには、80%の生徒が消費行動に関する悩みや疑問についての具体的な記述をし、題材における課題の解決だけでなく、自分の生活に生かそうとする態度がみられた。(表3)また、実際に消費生活センターを訪問し、活動状況を見学した生徒もいた。このように、消費生活の実践の場である家族や地域の人と協力し学びあう具体的な学習を構成したことは、生徒が学習内容にかかわることについて身近なことと実感し、よりよい生活に向けて工夫しようとする実践的な態度の育成に有効であった。

表3消費生活に関する悩みや疑問の記述例

- ・インターネット販売に挑戦してみたいが、分からないことがたくさんあって怖い。
- ・消費者保護のことをもっと知りたい。
- ・地域の環境に配慮した行動をとっている店のリスト等が消費生活センターにはあるのですか。
- ・消費生活センターで支援しきれない事例はどうしているのですか。

(4) 生活者としての自覚の高揚

ポートフォリオシートに記述してある「学習したことで生活に生かそうとすること」についての分析から、本時に学習したことと自分の生活に関連付けて記述していた生徒は、第1時では43%の生徒にしかみられなかったのに対し、第5時では84%の生徒が記述していた。(図4)また、授業が進むにつれて「通信販売やカード支払いは利用しない」等、消費者問題の逃避から「ものを大切に、生活する中で消費者としての責任をもって行動していく」等、自立した消費者を目指そうとする記述が増加した。今日的な消費生活に関する問題解決学習を通して、生活者としての自覚の高揚が見られ、人やもののかかわりから情報を適切に判断し処理できる意思決定能力をはぐくむことができた。

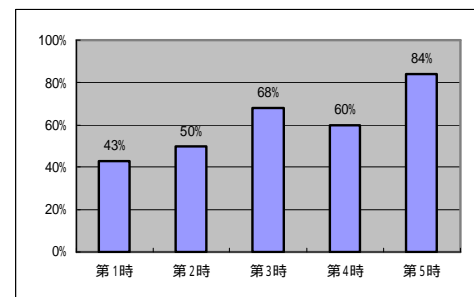


図4 「学習したことを生活に生かそうとすること」の回答

今後の課題

消費生活の問題の解決を環境負荷の少ない消費行動に焦点化した事例を実践研究したが、今日の消費生活に関する問題は多様であり、解決の方法も異なる。生徒の消費生活の実態に応じた消費行動の場面設定の応用や消費生活に関する新しい情報の提供方法を工夫する等、系統的な指導の手だてを今後も追究していく。